

キリスト教と平和・戦争

宗教は暴力を助長しているのか？

- 9.11の前と後
- 宗教的暴力(テロ)は「例外」か？

例外状態

- 「主権者とは、例外状態に関して決断を下す者である。」(カール・シュミット『政治神学』1933年)
- Sovereign is he who decides on the exception.

暴力、そして絶望と歓喜

- Ground Zero
- 9.11
- Hiroshima, Nagasaki

暴力の起源、宗教の起源

- 暴力(戦争)の起源
 - 考古学的説明: 経済的要因、思想的要因
 - 聖書的説明: 兄弟殺し(創世記4章)
- 宗教の起源
 - シンボリズム、死者の葬送



人間は動物ほど野蛮ではない？

- 動物と人間の分岐点
- 西洋史: 人間の動物に対する優位性
 - 「神の似姿」(Imago Dei)としての人間(創世記1章)



人間の動物に対する暴力

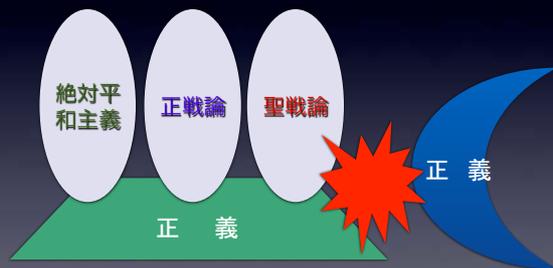
- 動物と人間の共生から、その崩壊の時代へ
- 動物の家畜化 ⇔ 人間社会の植民地化、資源の収奪
- 日本における事例：動物供養

7



8

戦争論の三類型



7

絶対平和主義 (pacifism)

- 「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。」（「マタイによる福音書」5:38-39）
- 「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」（「マタイによる福音書」5:43-45）

8

平和主義から正戦論へ

- 「コンスタンティヌス体制」（313年、ミラノ勅令）以降、絶対平和主義の考え方は、徐々に主流から傍流へと移行していく。
- しかし、絶対平和主義は、ワルド派、カタリ派、フス派、メノナイト、フッタライト、キューカー、プレズリンなどの少数派を通じて受け継がれていく。

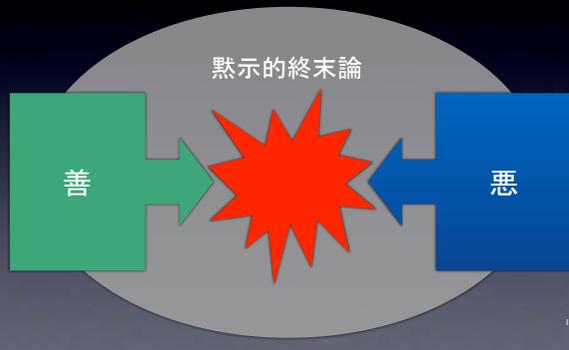
11

正戦論 (just war theory)

戦争への正義 (jus ad bellum)	戦争における正義 (jus in bello)
(a) 正当な理由	(a) 区別の原則 (戦闘員と非戦闘員を区別する)
(b) 正当な権威	(b) 比例性の原則 (なされた不正を正すのに必要以上の力を行使しない)
(c) 比例性 (結果として得られる善が戦争という手段の悪にまさる)	
(d) 最終手段	
(e) 成功への合理的見込み	
(f) 動機の正しさ	

9

聖戦論 (crusade, holy war)



十字軍 (1095~1270年、8回の遠征)

- ウルバヌス二世のクレルモン会議での演説 (1095年) 「かくて互いの間に平和を保つことを約したおん身らは、東方の兄弟たち、神に背く呪われた種族の脅威にさらされている兄弟たちを、救う義務を負っているのである」。
- ウルバヌス二世による十字軍の呼びかけには、異教徒によって「汚染」された聖地を「浄化」しなければならない、という主張があった。また、人々の間には**世界の終末**に近い、という期待があった。

14

暴力の近代性

- 人間の「絶対性」は相対化されてきた。
- 「憎悪」ではなく「無関心」により起動する暴力のシステム
- 反ユダヤ感情 (憎悪) とホロコーストの違い
- 生命の序列化——科学の名のもとに

15

宗教と暴力をめぐる日本の事例



結論

- 「例外状態」を注視する。
- 宗教は、人間の両極端を見極めるレンズの役割を果たしている。
- 宗教における平和と暴力の源泉、および両者の関係を見極める。
- 暴力や戦争を正当化する論理を理解する。
- 暴力の起源と共に暴力の近代性を洞察する。

17